



同一のものをいくつも集積させることにより本来の役割を剥奪し、新たなアイデンティティーを与えることができる。『鰭』で使用したプルタブとは、基本的に飲み口を開けるためのつまみという極めて限定的な役割を持つものなのだが、刺繍糸で加工し集積行為を経て新しく“鱗”というアイデンティティーの付与に挑戦した。

総合造形

H50cm×W70cm×D50cm 1点

令和8年 筑波大学芸術専門学群 卒業研究・作品集より

このコーナーでは、筑波大学芸術系ならびに同大学の芸術専門学群を卒業された方々のご協力のもと、芸術作品を掲載しています。